

鉄鋼二次製品

ナフサ供給難から一部品種に“脚光”

亜鉛鉄板、ポリ波板から代替需要

ナフサ比率低い塩ビ被覆鉄線にも注目

ホルムズ海峡の実質的封鎖によるナフサ（粗製ガソリン）関連製品の高騰・供給難の影響で、スポットライトが当たっている鉄鋼二次製品がある。ポリカ波板に代わる亜鉛めっき鉄板（トタン板）や、ナフサのバージン材を使用する割合の低いポリ塩化ビニル（PVC）被覆鉄線、水性塗料によって塗装されたビスなどだ。

補修・改修用の屋根材や、農業用の囲いとして用いられてきた亜鉛めっき鉄板に代わって、ここ十数年間、軽量で採光性の高いポリカ波板が台頭している。しかし最近猛暑の影響で、影を作る亜鉛めっき鉄板に再び注目が集まっており、さらに中東情勢の影響からポリカ波板の供給がタイト化。価格も高騰していることから「ここに来て亜鉛めっき鉄板の引き合いが増している」（関係者筋）

ポリエチレン（PE）被覆と比べ、ナフサの使用が少ないポリ塩化ビニル（PVC、塩ビ）被覆が再び採用される可能性が高まっている。そのほか、これまで油性塗料での塗装がスタンダードであった釘・ビス・工具類のカラー塗装においても、水性塗料の使用が検討されており「水性塗料と

いっても、水ですぐ落ちるわけではない。基塗料でも構わないというわけではない。基塗料を満たす着色が可能であれば、シチュエーションによっては水性から、さまざまな副資

材の調達難が嘆かれるが、技術の進歩や企業間の協業により、強度や環境面でこれまでと遜色のないアイテムを供給できるとして「これが緊急時の代替案としてだけでなく、そもそも複数の選択肢を持つことがリスクヘッジにつながる。供給・価格の安定化と同時に、これまでシュリンクしていた需要に、再び光が差すことに期待したい」（流通筋）と話す。

